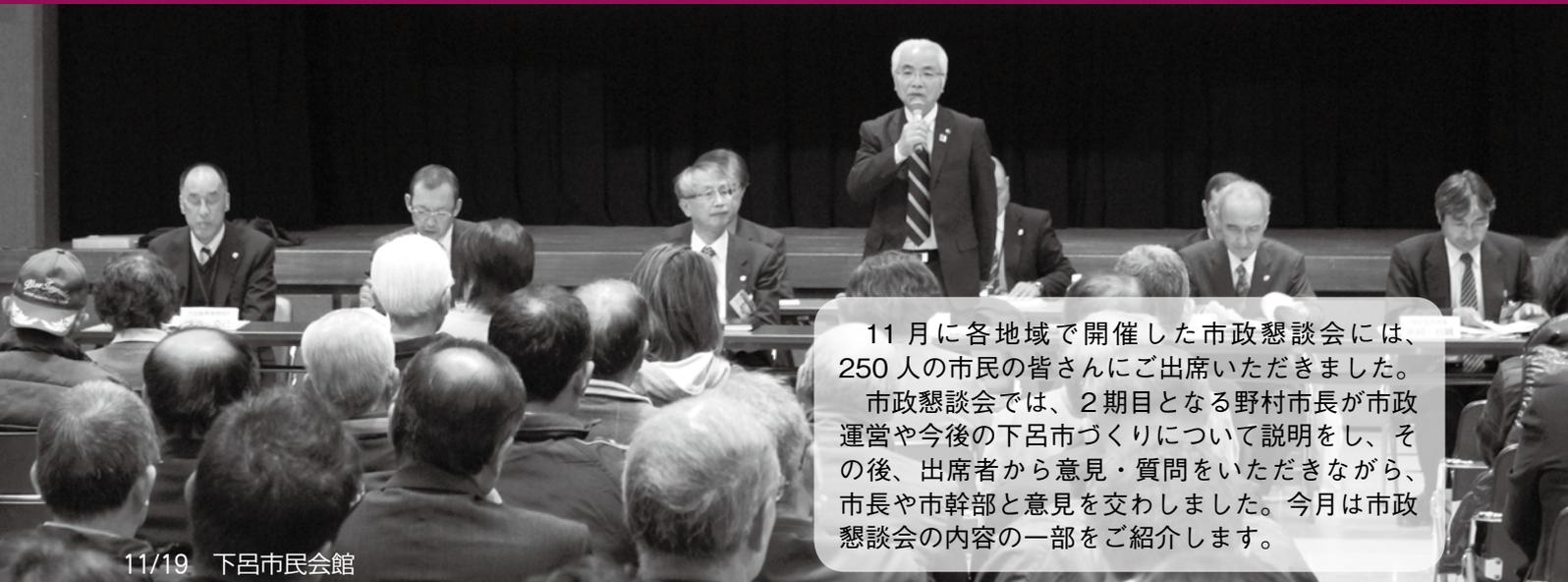


市政懇談会



11/19 下呂市民会館

11月に各地域で開催した市政懇談会には、250人の市民の皆さんにご出席いただきました。市政懇談会では、2期目となる野村市長が市政運営や今後の下呂市づくりについて説明をし、その後、出席者から意見・質問をいただきながら、市長や市幹部と意見を交わしました。今回は市政懇談会の内容の一部をご紹介します。

対話と協調を大切に

元気な下呂市をめざして、豊かで暮らしやすいまちづくり、そして市民の皆さんの対話と協調を大切にしていきたいことを念頭に市政運営を進めていきます。

今年度は、下呂温泉病院の新築移転工事の着工、新金山病院の開院がありました。病棟連携、病診連携による役割分担、医師会との連携で皆さんの健康といのちを守ることが大切です。医師招へいに向けた奨学金制度や看護師確保のための助成金などの制度を継続していきます。地域医療の崩壊は下呂市の崩壊と同義であり、市民とともに守っていききたいと思います。

子育てしやすい環境づくり

未満児保育の充実や、第3子の保育料の無料化と各種予防接種ワクチンの助成の継続。中学生までの医療費の無料化の実現を目指します。

地域に根差した強い産業づくり

基盤となる交通網の整備が重要です。41号線を基軸として「TPO」号などがあり、県道、市道があります。下呂市は高速道路網のエア・ポケット。濃飛横断自動車道の下呂金山間が開通しましたが、15年後のリニア中央新幹線にむけて整備を要望していきます。2年後には北陸新幹線の富山高岡駅の開業があります。安心安

全な道路が市民の日常生活や産業活動・観光のためにも大切です。各地域の観光資源を磨き、連携して商品化、滞在型観光により150万人誘致を目指します。

クリーンセンター建設

何度が失敗し、批判もいろいろあります。候補地は決まっています。候補地が粘り強く説明し、任期中に候補地選定と環境アセスメントに入りたい。

庁舎の一本化

職員間の連携強化、防災・減災に役立つ庁舎が必要です。なんとか一本化していきたい。

市民憲章の制定

合併9年となるが一体感がないとよく言われます。各町村にもそれぞれ憲章がありました。一体感を醸し出すためにも、市民憲章を制定します。

これからも市の財政がさらに厳しくなります。平成31年度には国からの交付税が約30億円減額となります。さらなる行財政改革として行政も職員数と給与の削減が必要です。職員が減少するなかで地域力が大切となってきます。市民と行政と一緒に考え、地域でできることは地域でやることが重要です。少子高齢化・過疎化がすすんでいます。将来ある子どもや孫たちの時代に向かって「元気な下呂市」をみんなで一緒に創っていかなくてはなりません。

◆主な内容

◆交通網整備は？

インフラ整備は生活・産業活動に基本的に必要なものです。将来、リニア中央新幹線の間歇駅が中津川にでき、新たな岐阜県の東の玄関口となります。また、北陸新幹線の富山高岡駅の開業があります。41号線などの幹線道路の強化、濃飛横断自動車道の整備促進など、災害面・観光面での道路網整備が観光立市の下呂市では最重要課題となっています。行政だけでは国や県を動かすことは難しい時代です。市民の皆さんも一緒に必要活動をしていただきたいと思います。

◆旧湯屋小学校校舎について

現在、利用検討委員会を開催しています。何とか再利用できないかという方向で検討しています。ただし、旧校舎は古い木造建築で、耐震性には大きな問題があります。耐震工事をするには、基礎から手直ししなければならぬ状況で、かなりの費用が必要になってきます。したがって、有効利用が見いだせなければ、選択肢は非常に狭まってくると思います。その場合、取り壊しということもありうると思っています。

◆クリーンセンター建設は

平成5年から稼働しており耐用年数を迎えようとしています。施設の必要性は理解されているが、受け入れとなると難しい。施設の職員に健康被害が出たことはありません。現在の施設のダイオキシン類の数値も基準値以下です。用地は決まっています。出前講座や視察など進めながら選定していきたい。

◆上下流域との交流は？

名古屋市上下水道局職員や愛知県の職員も、現地研修で水源地である当市を訪れています。また、木曾川流域のシンポジウムや尾張水道協議会などにより、下流域交流が広がっています。今後も努力していきたい。

◆観光客150万人誘致は？

それぞれ5地域の特色を生かしていけば夢ではないと思います。小坂の滝めぐり、馬瀬川のアユ、天領朝市、岩蔭遺跡や横谷峡、ダム湖の湖利用、観光農園などがあり、温泉だけではありません。これらの豊富な資源を旅行会社と連携しながら総合的に商品化していくことでにぎわいを取り戻す。初めての修学旅行生の受け入れもありまし

た。粘り強くやっていく必要があります。1次産業から3次産業まで全てを含め、市全体が観光であると思っています。

◆市内のいじめの現状は？

平成24年4月から9月までの半年間で、いじめと認知した件数は、小学校7件、中学校5件の計12件です。小学校7件の内、4件は保護者からの連絡で、もっとも多くなっています。その他は、本人の訴えが1件、担任の発見が1件などです。中学校5件の内訳は、本人の訴えが2件、保護者からの連絡が2件、友達から1件となっています。教員がいじめの実態をつかむことは、難しいのが実態です。いじめの性質上、教員や大人のいないところで行われることが多いからです。なお、12件につきましては、すべて解決しています。

◆若い世代に光を

子や孫が大人になって下呂市に住みたいと言われるようなまちづくりが必要です。第3子の保育料や医療費の無料化は将来につながっていくと思います。生活・子育ての支援というのをやらなくてはいけないと思います。

◆下呂温泉病院跡地について 市民との合意形成を

4事業者から提案があり、すべて高齢者福祉施設でした。市民提案は30以上。精査の結果現在は1事業者が残りました。しかし、駅周辺に高齢者福祉施設ができることが、下呂地域の活性化となるのか、にぎわいが取り戻せるのかという点があります。今はまだ結論が出ていません。今後、市民の皆さんにもお知らせしていきます。市民提案については、核となる民間事業者が決まった段階で、いかに事業者による提案を受け入れてもらえるかという観点で、慎重に検討し計画を進めていきます。

◆発達障がいの子どもへの教育

特別支援学級などでの指導が差別を助長しているのではないかとこのことですが、そのようなことはないと思っています。さまざまな支援が必要な子どもが増えています。障がいの程度により、指導の在り方が違ってきます。特別支援学級に在籍しながら指導を受けるお子さん。通常学級に在籍しながら、週に数時間、ことばの教室などで指導を受けるお子さん。通常学級



に在籍し、担任以外の学業支援員の支援を受けているお子さんなどです。その子にあった支援ができるよう、工夫しながらさまざまな支援を行っています。最終的には、それぞれのお子さんが自立していけるように支援していくことだと思っています。

◆地域での災害時の備えは？

現在、市防災計画を見直しています。一次避難所は地域で、その後、市が設置する避難所と段階的に分けています。災害時に必要なものは地域ごとに異なります。市の補助制度や宝くじ助成金などの有効活用により整備していただきたい。実例として防災倉庫や発電機、投光器などを購入している自治会もあります。

◆金山病院の現状と跡地利用

新病院開設以来、11月は最大外来患者数・入院患者数となる見込みです。11月は約5500

名の外来患者が予想されます。入院については今の施設は一般50床、療養49床の病床数で、看護体制が整ったので一般については50床全て対応が可能です。療養については29床で対応しています。今後は看護師も増やし33床として、健全経営を目指します。苦情なども頂いているので改善していきます。

跡地利用については、行政としての利用計画はありません。どのように利用していくかは地元との協議で皆さんと話し合いながら、その中で道路もあるので担当課とも相談して進めていくこととなります。

◆平成31年度に向けた ランドデザインは？

交付税が30億円減ったときのシミュレーションを行っています。減つても耐えられる行政運営を考えているが、インフラ整備なども考えないといけない。行政組織の見直し、公の施設の見直し、市民ニーズに因應する職員体制などを考えています。職員給与のカットも行っています。職員も市民の皆さんの苦しんでいる状況を感じて欲しい、意識改革をしていきたい。